

子どもが輝く学校づくり
アンケートから

昨年、瀬教労が実施した「子どもが輝く学校づくりアンケート」に寄せられた意見を紹介します。

《コロナ禍3年の状況と対応》

1 あなたが負担に感じたり心配していることは何ですか。

・朝、検温忘れの子への対応。
・下校時に除菌シート配付、回収作業（児童が机・いすを拭いている）
・コロナで精選された行事や会議、必要なものかどうかをよく検討して不要なものはないようにしてほしい。

・職員が罹患して代替教員がいなかったため、いるメンバーでやりくりしていかなくてはならない。
・補欠授業のために他の教員が手伝い↑立場の弱い若者や講師は空きナシ。突然の授業変更が常。

・長期欠席者の対応（同時に、複数の児童の把握をしながら）は、連絡、事務処理、タブレット等を届ける手間、時間がかかる。

《ICT教育》

1 タブレットを利用した教育活動について、困っていることや不安などがありますか。

・学校からのルールを示している児童もいる。
・普段から人と接するのが下手な児童が個の世界にのめりこむ。
・分からない言葉等すぐ「タブレットを壊そう」と言い、退けると機嫌が悪くなる。勝手に遊んでいる。

・朝の「心の天気」の入力はなくてもよい。子どもの顔を見たり、話を聞いて子どもの様子を見てほしい。



様子把握したい。
・タブレットを使うため（活用するため）の授業は必要か？
2 タブレット等のICT機器の使用や教育のデジタル化について、子どもや先生方の様子を見て心配なことや、学校や行政の対応などに関して意見や要望があればお聞かせください。

・ベネッセの支援員が入ったが、複数校で1人月4回で、ミライシードしかさわれず、C4thなどエディコム会社のものでタッチできずとても不便。システムの更新もできず、エディコムの人を支援員としてほしい。
・タブレットを活用するため業務が増えている。本来はタブレットを活用して業務の効率化がされるべきだが、

《教職員の健康問題と多忙化解消、時間外勤務の割り振り》

2 時間外勤務や割り振り、勤務時間、休憩時間、年休・療養休暇などについて、意見や要望がありましたらお聞かせください。

・割り振り
・時間に余裕
・かきこみ
・時間外勤務



守られていない。
・部活動が勤務時間を日常的に超えている。勤務時間外でも打ち合わせや会議が行われる。↑勤務時間を守ることを求められる。
・休憩時間はとれない。休憩場所がない。
3 どのようなことに対して疲労やストレスを感じますか。

・授業準備の時間を取られるとプリント類、提出物の朱入れや確認が後回しになってしまう。
・時間が足りない。授業準備はやつてもやつても終わらず、毎日忙しい。結局教材研究がまともにできていない状態で、授業をやること案の定うまくいかない。
・家庭との連絡が業務時間に切り終わることはない。
・行事計画、経験の少ない教諭に教えること等時間がかかることばかり。

4 教職員が健康に働き続けられるために何が必要か、意見や要望がありましたらお聞かせください。

・教職員増。1学級あたりの児童数減による負担減の実現。
・教職員の数が足りない。人材確保、業務の精選。

《その他》
1 小中一貫教育、道徳、小学校英語科、小学校高学年での教科担任制、ハラスメント、子どもや職場の気になること

などがありましたらお聞かせください。

・一人ひとりの親の要望が多すぎる。学校でやれることの線引きを家庭に示してほしい。
・持ち時間を減らす。
・育休・時短・育休の制度はあるが、取得すると後補充の講師がなく、取得ができない（しにくい）。



アンケートのご協力ありがとうございました。アンケート結果は瀬教労のHPをご覧ください。

健康で働き続けられる
職場環境の整備を！

職場では仕事や時間に追われ、職員同士で会話もできない状況です。ストレスを抱え、病んで職場を去っていく人も後を絶ちません。
教員が生きて甲斐を持って楽しく教育実践できること、心身ともに余裕があり大きな視野で子どもたちに日々接していきたいです。

こどもと教育9条の会 第18回総会&例会

日時：2月23日(木)
13時45分～

会場：瀬戸市文化センター

【総会】13…45～14

【例会】14…15～16

戦争は教育から始まる
講師：寺脇正治さん

戦時中の3点の教材から

『初等科修身』
『世界興亡図表』
『大東亜戦争要図』



寺脇正治さん

連続学習会 1月

教師としての喜び・子どもたちに伝えたいこと



日時：1月28日(土)
午後2時～

場所：組合事務所(萩山台9-32)

内容：基調報告(甲斐雄彦)

教員として歩んだ道、未来へのバトンを子どもたちにどう繋げていくか交流しましょう。

瀬教労事務所

(萩山台9-32 新婦人事務所内)



あけましておめでとうございます

教育実践や最近気になること、今ハマっていることなども交流しましょう。



教員を増やして!

教員の働き方やキャリアを研究する北海道・名寄市立大の高島裕美准教授によると、全国規模で教員の退職理由を詳しく調べる公的な調査はない。ただ、文部科学省の学校教員統計調査によると、退職が増える年齢には、二つのピークがある。出産や育児が増える。

識者が指摘

高島准教授によると「職場内で教員同士、サポートし合えた時代もあった。しかし、

「時短」選べる人員体制に

教員の多忙化でそれも限界に。「教員の仕事はどれだけやっても終わりがたない。仕事量を減らさない」と指摘する。さらに「時短勤務をする」と、同僚に迷惑を掛けると考えて辞める教員もいる。時短を選べるよう、国や自治体が人員を補充したり、担任を持たない教員を増やしたりするべきだ」と強調する。

中日新聞 (2022.12.8 より)

学校跡地利用について考える

瀬戸市・瀬戸市教育委員会は、「開校を予定している小中一貫校について」のパンフレットで、学校跡地を「機能を減らさず複合型へ転換」として、地域コミュニティの拠点への進化を示しています。

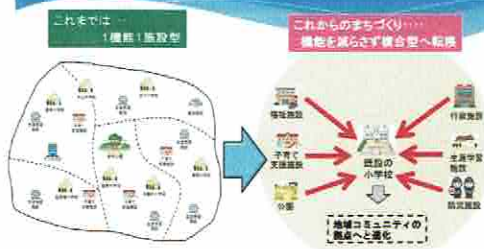
開校を予定している小中一貫校について

～子どもたちの、より良い教育環境づくりのために～



瀬戸市・瀬戸市教育委員会

学校跡地を核としたまちづくりへの取り組み



ところが、古瀬戸小学校は企業のスポーツ施設に、道泉小学校(校舎・敷地等)はソラン学園が優先で決まりそうです。瀬戸市が描いていた地域コミュニティはどこに行っちゃったのでしょうか?

大軍拡ゆるすなの国民的共同を

1947年、文部省が出した発行した中学1年生用教材『あたらしい憲法のはなし』の「戦争放棄」に次のような記述があります。

「よその国と争いごとがおこったとき、けつして戦争によつて、相手をまかして、じぶんのいいぶんをとおそうとしないうことをきめたのです」

「おだやかにそうだんをして、きまりをつけようというのです。なぜならば、いくさをして、かけることは、けつきよく、じぶんの国をほろぼすようなはめになるからです」

安保法制に続く「安保3文書」と軍事費拡大は、平和を壊し、国民のくらしと福祉を壊し、亡国の道に進むものです。国民的共同で、岸田内閣の暴走を止めましょう。